

東京大空襲・戦災資料センター戦争災害研究室主催

第4回無差別爆撃シンポジウム

帝国と空襲

イギリス・台湾空襲を検証する

日時：2010年10月23日（土）13：30－18：00 参加費：無料

会場：明治大学駿河台校舎研究棟2階第9会議室

（JR 総武線・中央線・東京メトロ丸ノ内線 御茶ノ水駅下車徒歩7分／東京メトロ千代田線

新御茶ノ水駅下車徒歩7分／都営新宿線・三田線・東京メトロ半蔵門線 神保町駅下車徒歩7分）

問題提起 **大岡 聡**（日本大学法学部准教授・東京大空襲・戦災資料センター研究員）

報告者 **山根和代**（平和資料館「草の家」理事・高知大学非常勤講師）

「イギリスにおける空襲展示について

ーロンドン・コヴェントリーを中心にー」

洪致文（国立台湾師範大学地理学系助理教授）

「第2次世界大戦における台湾空襲」

※報告後、コメントと討論があります。

財団法人政治経済研究所付属東京大空襲・戦災資料センターの戦争災害研究室では、2007年から共同研究「東京大空襲体験の記録化と戦争展示」の一環として「無差別爆撃」についてのシンポジウムを開催し、その成果を報告書として刊行しました。また『岩波 DVDブック Peace Archives 東京・ゲルニカ・重慶—空襲から平和を考える』（岩波書店、2009年）に成果を集大成しました。

共同研究の最終年度に開く今回のシンポジウムでは、今までのシンポジウムでは十分扱えなかった、ドイツ軍によるイギリス都市空襲、アメリカ軍による台湾都市空襲をとりあげます。これらの空襲の実態とともに、戦後、それらがどう記憶・記録され、博物館を中心にどう伝えられてきたのかにも焦点を当てます。帝国本国への空襲、帝国の植民地への空襲を取り上げることにより、空襲の世界史の視野を広げることがをねらいとしています。

イギリス都市空襲については、2009年9月、東京大空襲・戦災資料センター館長・スタッフなどのイギリス訪問に同行した山根和代さんから、台湾都市空襲については、台湾から空襲研究を専門とする洪致文さんを招いて、研究成果を発表していただきます。

多くのみなさまのご参加をお待ちします。

会場案内

東京大空襲・戦災資料センター

〒136-0073 東京都江東区北砂1丁目5-4

Tel: 03-5857-5631 Fax: 03-5683-3326

Web: <http://www.tokyo-sensai.net/>

